

5月に入って木澤(ヤクルト)山本(阪神)中村健(広島)柳町(ソフトバンク)ら塾出身プロ野球選手が活躍し、日刊スポーツ紙上を連日のように飾っています。 2022年5月10日 林 莊祐

【ヤクルト】

20年ドラ1木沢尚文プロ初勝利

母の日

ウイニングボールは

2022年5月8日

「何かとアグレッシブな」母に



巨人対ヤクルト プロ初勝利を挙げ、ウイニングボールを手
に高津監督(右)と笑顔のヤクルト木沢(撮影・河田真司)
守護神撃ちで首位キープ!! ヤクルトが巨人を逆転
で破ってカード3連勝を決めた。1点を追う9回1死
一、二塁、途中出場の山崎晃大朗外野手(28)が、今
季セーブがかかった場面で失敗のなかった巨人大勢
投手(22)の初球を捉え、決勝の2点適時二塁打。1
点ビハインドの8回を3者凡退に抑えた木沢尚文投
手(24)がプロ初勝利を挙げた。巨人は今季2度目の
同一カード3連敗で3位に転落した。

20年ドラフト1位右腕の木沢が「母の日」にうれ
しいプロ初勝利をマークした。「まずは先頭、そ
して1人ずつ抑えられるようにとマウンドに上が
りました。とにかく逆転していただいた野手の

方々に感謝したいです」と素直に喜んだ。

期待された昨季は1軍登板なしに終わったが、今季はキャ
ンプからアピール。150キロ超の新球シュートを軸に、こ
こまで10試合で防御率0.00と安定した投球を続けている。

ウイニングボールは母聡子さん(54)に手渡す。慶応高か
ら寮生活で親元を離れるが「なにかとアグレッシブな母親
なので。かけてくれる言葉も非常に前向きにしてくれる、
背中を押してくれるような母です」と言う。プロに入って
からも客観的な助言をくれる母には「ありがたいと思いま
す」と感謝しかない。たくましく成長した姿を、これから
も見せていく決意だ。

巨人対ヤクルト 8回裏、ヤクルト4番手で登板する木沢
(撮影・河田真司)



「前に飛ばそうと」初球V打

2022年5月5日



オリックスに勝利し、笑顔でガッツポーズするソフトバンク柳町(左)と上林(撮影・屋方直哉)

ヒーローインタビューを受ける柳町(撮影・屋方直哉)

＜ソフトバンク9-3オリックス＞◇5日◇ペイペイドーム
ソフトバンクのニューヒー



ローが「こどもの日」に輝いた。3年目の柳町達外野手(25)が決勝打を含む2安打2打点の活躍で、チームの対オリックス2年ぶりカード3連勝に貢献した。柳町は10試合連続安打。規定打席不足ながら“隠れ首位打者”の3割9分1厘の高打率をマーク。昨年ウエスタン・リーグで最多安打の若鷹が、このまま定位置奪取を狙う。

◇ ◇ ◇

勢いに乗る男がまた打った。同点の6回1死二、三塁。柳町は腹をくくった。「チャンスだったので。初球から振って、なんとか前に飛ばそうという気持ちでした」。相手先発ワゲスパックの、甘く入った初球を見逃さなかった。とらえた打球は鋭く伸び、左翼手の右へ。これが決勝の2点適時二塁打になった。

3月末に左膝を痛めた栗原に代わって昇格。昨季、2軍監督だった藤本博史監督は、ウエスタン・リーグで最多安打の柳町を「安打ということに限ったらナンバーワン。1軍に行っても2割7分、8分は打てる」と、打撃面を高く評価し、起用を続けてきた。一方で、指揮官が課題として指摘していたのが、好機での消極的な姿勢だった。

敗れた1日楽天戦では、初回2死満塁で見逃し三振。指揮官は「チャンスになればなるほど、ボールを見てしまう。もっとがつついていくくらいがいい」と、アグレッシブな姿を求めている。それだけに、この日の初球打ちV打には「ああやってファーストストライクからしっかり振ってくれば、ああいうタイムリーが打てるんだから。よく打ってくれましたね」と満足そうだった。この日は7回にも左前打。10試合連続安打で、ここ10試合は35打数17安打と打ち出の小づち状態。レギュラー定着も現実味を帯びてきた。6日ロッテ戦では佐々木朗と対戦予定。柳町は「打てれば一番いいですけど、なんとか1個でも出塁したり、1球でも多く投げさせたり。チームの勝利に近づけるような1打席、1打席にしていきたい」と謙虚にアピールを続けていくつもりだ。

活気づいた打線は7回に一挙6点を奪うなど、9安打9得点とつながりを見せた。昨季王者オリックスには、2年ぶりにカード3連勝。乗ってる若鷹とともに、一気の5月攻勢に出る。【山本大地】

9回裏山本泰寛、押し出し選んだ



満員甲子園ファン後押し

9回裏阪神2死満塁、山本はサヨナラ四球を選ぶ(撮影・上田博志)

＜阪神3-2ヤクルト＞◇5日◇甲子園

阪神が今季初めてのサヨナラ勝利で、連敗を2で止めた。同点の9回に先頭の近本光司外野手(27)が左前打で出塁。続く中野拓夢内野手(25)が送りバントを決め、佐藤輝明内野手(23)は敬遠。大山悠輔内野手(27)は内野ゴロに倒れ、代打糸井嘉男外野手(40)が敬遠されて2死満塁。この場面で山本泰寛内野手(28)が押し出し四球を選んだ。押し出し四球でサヨナラ勝ちは7年ぶり。

お立ち台に上がった山本は「最高です」と声を張り上げた。サヨナラ場面については「みんながつかないでくれた大チャンスだったので、なんとかランナーをかえそうという気持ちで打席に立ちました」と振り返った。

ともにヒーローインタビューを受けた3安打の近本は「(9回は)サヨナラの場面つくることができ良かったです」と笑顔。「なんとしても今日は勝たないと、というのがあったので、こういう最高の形で勝って、これからもどんどん勝っていきたいと思います」とも語った。

3日連続満員の甲子園。前日までの2試合は0封負けを喫していたが、子どもの日によく白星を届けることができた。久しぶりの得点は4回だった。近本、中野の連打で1死一、二塁とし、佐藤輝が中前に鋭くはじき返し、1点を返した。

「ホームでのヤクルト戦」という条件では4試合連続無得点が続いていたが、3月25日の開幕戦(京セラドーム大阪)で4回に得点して以来、44イニングぶりに得点を挙げた。

さらに、5回も近本、中野の連打でチャンスを作り、押し出し四球で2-2とした。その後はしのぎ合いとなった。

先発のジョー・ガンケル投手(30)は5回2失点(自責1)。2勝目はならなかったが、無失点でつないだブルペン陣を含めた粘りが打線の反撃を呼んだ。

好返球で2度本塁アウト、

2022年5月4日

2戦連続適時打で正右翼アピール

＜広島3-6巨人＞◇4日◇マツダスタジアム

打ってよし、守ってよし！ 広島のルーキー中村健人外野手(24)が攻守でアピールした。まず

は右翼守備。3、4回ともに0-0の2死二塁の場面で、右前打を素早く本塁に送球。いずれも好返球で先制を狙う二塁走者を本塁で刺した。バットでは5回2死一、三塁で左前に2試合連続となる適時打。チームは開幕から正右翼手を固定できていない。

トヨタ自動車出身の即戦力新人が、連日存在感を示している。

4回表巨人2死二塁、丸の打球を処理し、本塁へ送球し、二塁走者香月を刺す中村健(撮影・狩俣裕三)

中村健の白い歯が、鮮やかな芝の上で映えた。ナインがベンチの前で列をつくる。右翼守備から戻ってくるルーキーをハイタッチで迎えた。スキップしながら一塁側ベンチに引き上げる背番号50が球場の視線を一身に集めた。

両軍無得点の3回2死二塁だった。吉川の右前打に対し、猛チャージ。2バウンドのストライク返球が捕手坂倉のミットに収まり、先制を狙う走者を刺した。4回2死二塁でも右前打を1バウンド返球で本塁アウトに。その肩は本物だった。「(打者が)引っ張り傾向で一、二塁間にヒットゾーンがあった。そうなると一番僕が準備をしないといけないのは当然」。入念な心の準備が大きな返球につながった。「どちらも0-0の場面。振り返ると本塁打を1本というか2本うてたようなもの」。いずれも先制点を防ぐ、大きなプレー。3万人を超えるファンからも拍手喝采で称賛された。

守備の勢いをそのままバットに乗せた。5回、2点を先制し、なおも続いた2死一、三塁の好機。戸郷の低め変化球を左前に運んだ。2試合連続の適時打。一時はリードを3点に広げた。「『乗ってけ、乗ってけ』とベンチから声をかけられていた。乗った雰囲気をつないでいいスイングができた」。スタメン起用は2試合連続。チームが開幕から正右翼手を固定できない中、勝負強い打撃と堅実な守備でアピールを重ねた。「結果が出たのはいいことだが、自己中心的には考えられない。



チームの勝利のために一瞬一瞬を全力でやりたい」。ポスト鈴木誠也の一角がデーゲームで躍動した。

チームは逆転負けで2戦連続のヒーローとはならなかった。首位巨人とは2・5差に広がったが、中村健の攻守にわたる貢献が与えたインパクトは大きかった。【前山慎治】

4回裏広島無死一塁、内野ゴロで一塁にヘッドスライディングする中村健(撮影・加藤孝規)

◆中村健人(なかむら・けんと)1997年(平9)5月21日生まれ、愛知県出身。中京大中京では3年夏に甲子園出場。慶大-トヨタ自動車を経て21年ドラフト3位で広島入り。契約金5000万円、年俸1100万円(いずれも推定)。広角に打ち分ける技術と長打力を併せ持つ。183センチ、90キロ。右投げ右打ち。